

# みつぎ便り

153号  
6月号

板橋区役所みどりと公園課の花づくりグループと  
エコポリスセンターの環境観察員地域自主活動グループに  
所属しているボランティア団体「見次の会」です

平成31年6月1日 [https://itbs-ecopo.jp/environsurvey\\_report](https://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report)

## マンネングサ

公園のバス通り横の一面に、可憐な黄色の五弁の花が咲いて居ます。草の高さもないので地面に接しているように見えます。

万年草（マンネングサ）と呼ばれるグループに属する花で、モリムラマンネングサ、コモチマンネングサなど八種類くらいあります。

六月頃に多数の黄色い花をつけます。東京を中心として広く野生化しています。丈夫な植物なので、万年の名がつ



けられたようです。

前回も書きましたが、見次公園には一見、雑草と思われる草花が多く見られます。よく見ると、小さいけれど立派に花をつけていることに気が付かされます。  
(重)

## ブラックバス

三年ほど前に、公園の池にいる特定外来生物の魚「ブルーギル」を紹介しましたが、この魚よりどう猛で繁殖力の強いブラックバスの話です。

この魚は、一九二五年に日本で初めて、実業家によって箱根の芦ノ湖に放流されました。目的は食用と釣りの対象としてでした。

しかし、その後日本の各地の湖や沼に放流され、また違法に放流を繰り返されました。在来種の魚や水生節足動物等を主に捕食するため、湖沼の環境が大きく変わってしまうなど社会的な問題になっています。

体長は最大六十センチにも成長します。体は薄い緑に黒い色の横縞があります。体形は海



のスズキに良く似た形をしています。

公園の池では小物釣りの対象のモツゴ、手長エビなどを釣っている時に、ブラックバスがつかれることがあります。釣った時の引きの強さは、ゲームフィッシュとしての対象になる訳が納得できません。

もつとも、この公園では、芦ノ湖にいるような巨大なブラックバスには、お目にかかったことはありませんが、特定外来生物がこれ以上増えるのは問題ですね。  
(圭)